

▲

聖書フォーラム信仰告白の学び

【4】 2.神の本質について

2025.02.17

恵比寿聖書フォーラム



【4】2. 神の本質について



2. 神の本質について

- ①父、子、聖霊という三位格において永遠に存在する唯一の神がおられる。
- ②三位格は全て、同じ属性、性質、完全性、および**人格的特性**を有する。

【注解】

- ここでのポイントは、「人格的」と言っているかどうかである。
- 人格的特性と言うのはパーソナリティという意味であるが、それは神から来ているものであるため、それを適切に表現する言葉が日本語にはない。
- それゆえ、人間の性質を神に投影して説明している点が引っかけられるかもしれない。

【4】2. 神の本質について



【三位一体とは】

(1) 三位一体と啓示

- ①三位一体に関する知識は、神からの啓示がなければ、知り得ないもの。
- ②三位一体という用語は、聖書に出てこない。しかし、その概念は啓示されている。

(2) 三位一体の定義

- ①「**神は、実体（サブスタントィア）において唯一の神でありつつ、父と子と聖霊という三つの位格（ペルソナ）において存在する**」
- ②三位一体は、教会史においては、常にキリスト教正統派の教理であり続けている。しかし、この概念は、人間の理性によって納得することが不可能なため、「異端」と呼ばれる教えが種々誕生することになった。

【4】2. 神の本質について



(3) 神の単一性

ヤハウェ（主）は唯一

申命記6:4

聞け、イスラエルよ。主は私たちの神。**主は唯一**である。

ヨハネ17:21-23

21 **父よ。あなたがわたしのうちにおられ、わたしがあなたのうちにいるように、すべての人を一つにしてください。彼らもわたしたちのうちにいるようにしてください。あなたがわたしを遣わされたことを、世が信じるようになるためです。**

22 **またわたしは、あなたが下さった栄光を彼らに与えました。わたしたちが一つであるように、彼らも一つになるためです。**

23 **わたしは彼らのうちにおいて、あなたはわたしのうちにおられます。彼らが完全に一つになるためです。また、あなたがわたしを遣わされたことと、わたしを愛されたように彼らも愛されたことを、世が知るためです**

【4】2. 神の本質について



(4) 神の複数性

創世記1:26a

神は仰せられた。「さあ、人をわれわれのかたちとして、われわれの似姿に造ろう。

ヨハネ14:16

そして**わたしが父**にお願いすると、父は**もう一人の助け主**をお与えくださり、その助け主がいつまでも、あなたがたとともにいるようにしてくださいます。

マタイ3:16

イエスはバプテスマを受けて、すぐに水から上がられた。すると見よ、天が開け、神の御霊が鳩のようにご自分の上に降って来られるのをご覧になった。そして、見よ、天から声があり、こう告げた。「これは**わたしの愛する子**。わたしはこれを喜ぶ。」

【4】2. 神の本質について



ヤハウェ（主）という御名が、2つの位格に同時に使われている。

創世記18章

1 主は、マムレの櫛の木のところ、アブラハムに現れた。彼は、日の暑いころ、天幕の入り口に座っていた。

2 a 彼が目を上げて見ると、なんと、**三人の人**が彼に向かって立っていた。

22 **その人たち**は、そこからソドムの方へ進んで行った。アブラハムは、まだ**主**の前に立っていた。

創世記19章

24 そのとき、**主**は硫黄と火を、天から、**主**のもとからソドムとゴモラの上に降らせられた。

【4】2. 神の本質について



(5) キリストの永続性と神性

ヨハネ1章

- 1 初めにことばがあった。ことばは神とともにあった。ことばは神であった。
- 2 この方は、初めに神とともにおられた。
- 3 すべてのものは、この方によって造られた。造られたもので、この方によらずにできたものは一つもなかった。
- 4 この方にはいのちがあった。このいのちは人の光であった。
- 5 光は闇の中に輝いている。闇はこれに打ち勝たなかった。
- 6 神から遣わされた一人の人が現れた。その名はヨハネであった。
- 7 この人は証しのために来た。光について証しするためであり、彼によってすべての人が信じるためであった。
- 8 彼は光ではなかった。ただ光について証しするために来たのである。
- 9 すべての人を照らすそのまことの光が、世に来ようとしていた。

【4】2. 神の本質について



- 10 この方はもともとから世におられ、世はこの方によって造られたのに、世はこの方を知らなかった。
- 11 この方はご自分のところに来られたのに、ご自分の民はこの方を受け入れなかった。
- 12 しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとなる特権をお与えになった。
- 13 この人々は、血によってではなく、肉の望むところでも人の意志によってでもなく、ただ、神によって生まれたのである。
- 14 ことばは人となって、私たちの間に住まわれた。私たちはこの方の栄光を見た。父のみもともとから来られたひとり子としての栄光である。この方は恵みとまことに満ちておられた。

【4】2. 神の本質について



マタイ4章

3 すると、試みる者が近づいて来て言った。「あなたが神の子なら、これらの石がパンになるように命じなさい。」

29 すると見よ、彼らが叫んだ。「神の子よ、私たちと何の関係があるのですか。まだその時ではないのに、もう私たちを苦しめに来たのですか。」

サタンと悪霊がキリストの神性を認めている

【4】2. 神の本質について



(6) 三位一体の教理の歴史的概観

初代教会から教会教父時代（使徒直後の時代、1～2世紀）まで

- ①「イエスは主（キュリオス）なり」という信仰告白
- ② **キリスト教は二神信仰であるという批判**がユダヤ人や異教徒から出てきた。
- ③ それに対してキリストも神であり、しかも父なる神と一つであるという証明が必要となった。 →キリスト論との関連で、三位一体の教理が発展。

様態論 (Modalism)の出現

- ① 神の単一性を強調し、三神論に流れる可能性を否定した。
→神の単一性のみを強調し、三位一体を否定するというバランスを欠いた主張。
- ② 唯一の神が、**3つの異なる「様態」**で自己啓示を行なったと主張。
→それゆえ、3位格が同時に顕現することが否定される。

【4】2. 神の本質について



(7) 三位一体論の重要性

- (1) 三位一体を否定すると、聖書が神の啓示の書であることを論証できなくなる。
- (2) 神の真理の伝達に、御子と聖霊がともに関わっている。
- (3) 人類の救いに、三位一体の3位格が関わっており、三位一体を否定すると救済論は誤ったものになる
- (4) 信者の祈りは、三位一体を前提に捧げられるものである。

【4】2. 神の本質について



マタイ28

18 イエスは近づいて来て、彼らにこう言われた。「わたしには天においても地においても、すべての権威が与えられています。

19 ですから、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。父、子、聖霊の名において彼らにバプテスマを授け、

20 わたしがあなたがたに命じておいた、すべてのことを守るように教えなさい。見よ。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたとともにいます。」

第2コリント13：13

13 主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、あなたがたすべてとともにありますように。